

この記事は、共同通信社が配信して、山形新聞に掲載された記事を、物性グループ事務局が、両社から許諾を得て転載しております。

研究や論文執筆に不可

欠な科学系の電子ジャーナル(電子版学術誌)の購読価格が高騰している。全国の物理学者約1

100人が参加する組織

「物性グループ」は11月末、大学予算の削減や円

安も重なり購入が困難に

なっているとして緊急声

明を発表し、共同で閲覧

できる新たな体制の確立

や財源確保などの対策を

求めた。

科学誌を出版するネイ

チャー・ジャパン(東京

都)によると、2009

年以降、ネイチャー関連

の電子ジャーナルで大学

原因という。

また、国内の大学図書

館の連合組織「大学図書

館コンソーシアム連合」

によると、自然科学分野

の電子ジャーナル購入費

は約230億円。国や地

方自治体は、電子ジャー

ナルの購入に充てること

ができる運営費交付金を

電子版高騰 購入困難に

が購入する価格は2〜6

%上昇した。研究者が投

稿する論文が増え、内容

を審査する編集者の人件

費がかさんだことなどが

の電子ジャーナルの価格

はこの20年で平均7%値

上がりした。

物性グループによる

と、12年度の国内全大学

助成しているが、近年は

研究に直結する競争的資

金の比重を高めており、

04年度から国立大対象分

を毎年1%削減。研究者

論文増え編集費かさむ

科学系誌

の中には、所属する大学

で最新の論文をすぐに閲

覧できず、共同利用に出

向いた大学でまとめてダ

ウンロードせざるを得な

いケースもある。

物性グループ委員長の

石田武和大阪府立大教授

は「電子ジャーナルへの

アクセスは研究を進める

に当たって必要最低限の

条件。科学の発展や人材

育成のために環境を整え

てほしい」と話した。